

受講番号 19029 学校名 高知西高等学校 氏名 国則美恵子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1学年英語科 生徒数 40名
 科目名 総合英語 単位数(授業時数) 5時間 使用教科書名 CROWN I・II

クラスの様子・特徴

歴史と伝統のある本校の英語科に、英語力向上の夢を持ち入学してきた語学力の高い生徒が多い。ほぼ全ての生徒が、自主学習ができ、意欲的に授業に参加する。非常に優秀な生徒や、反面英語が好きではあるが、授業についていけないかと不安を持つ生徒もいる。

問題の確定

本校の目標「100プロジェクト」を達成するため、英語センター試験での高得点を目指し、長文読解力をつけさせる必要がある。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
ほぼ全ての生徒が、予習や復習を欠かさず、意欲的に授業に参加している。英語力や学習に取り組む姿勢には、個人差があり、学力にも差があるが、非常に活発で前向きに授業に参加、大きな声が出るクラス。	和訳前渡し授業を実施、本文内容読解にかかる時間を省き、Reading/Shadowing/Pair Work等の活動を多く取り入れた内容に満足し、4技能向上につながっていると感じている。	前期中間テスト総合英語 クラス平均79.5点 文法平均82.5点 前期課題テストクラス平均83点 (学年平均65点)

リサーチ・クエスト

英語の基礎力はついており、学力的にも高い生徒がほとんどだが、長文読解力がまだ弱い。様々な検定試験や、3年後のセンター試験に全国レベルにまで引き上げるために、英語力の弱い部分を今から向上させる必要があるのではないか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
単語・熟語指導を徹底し、定着をさせた後、音読指導や英語運用活動を多く取り入れることで、長文を速く読めるようになるのではないかと。	文法問題集とともに、教科書の各レッスンごとの新出単語・熟語を出題範囲とする試験を定期的実施する。その年間学習計画書を作成し、系統的に自主学習ができるように準備、年間を通して指導していく。授業で、各レッスンの始めにポキャプラーレッスンを実施、語彙が定着するよう回数を多く練習させる。	ポキャプラーレッスンを実施、練習を繰り返すことで、得点率は回を重ねるたびに良くなってきている。語彙が定着してきているものと考えられる。授業での、課題プリント実施を徹底し、テストの不合格の生徒には、合格するまで指導を続けた。その結果、取り残しが減ってきた。定期テストでの総合点でも、不合格者が減った。長文読解の折、楽に速く文章が読めるようになったとの声が多くなった。
和訳先渡し授業を実施するため、授業での教材取り組みの速度が非常に速い。学習内容もかなり多い。この学習内容を事前把握させ、また授業での取り組みの経過を残していけるよう、ノート作成を徹底的に指導し活用させることで、結果的に読解力をつけさせることに繋がるのではないかと。また、長文に慣れることができるのではないかと。	学習内容を事前把握させるため、予習ノート作成を徹底的に指導する。和訳と学習プリントを事前に配布し、予習ノートを作成させる。授業に参加し、取り組みの形跡も確認できるようにし、レッスンごとに提出させるなど徹底した指導を実践。その結果は、ノート・ポートフォリオ評価表に個人ごとに指導記録を残し、振り返りシートにもなるように、取り組みの結果を自己評価させ再提出させて指導を続けた。	予習ノート作成が効果的に作用したものと考えられる。授業への取り組み等も確認できるため、徹底した指導が実践できた。ノートとポートフォリオ評価表を通じて、指導を続けることで、生徒自身での観別学力の把握や、教員も生徒の学習面での悩みを知ることもつながり、予測していた以上の結果が得られよかつたと思う。
持久走と同じで、長文読解力の筋肉トレーニングをさせてはどうか。良質多量の英文に授業や補習・自主学習で取り組ませることで、日ごとに長文読解に慣れ、読解の速度が上がるのではないかと。	授業のWarm-upとして、Comprehension Checkを導入、長文読解を習慣づけた。各種検定試験、センター試験や、模試問題から多く問題を引用し学習させた。また、各種の試験を強く意識した、問題形式を定期考査に導入したり、模試の過去問を解析することで、全国での偏差値を強く意識させるようにした。生徒が楽しみながら問題に取り組めるよう、無意識に良質で多量の英文を多く読めるよう工夫した。	授業でのモチベーションをあげるために、生徒の興味関心を引くようなトピックを選び良質の長文を多く読ませた。実用的な問題を定期考査に導入することで、全国模試等での偏差値を強く意識させることができた。進路指導にも波及する効果があったと思われる。その他、生徒が興味関心を持てるよう、努力しているところを生徒が評価してくれた所も教員の意欲を向上させてくれるという、結果につながった。

研究の成果

生徒の授業評価の中に長文読解力がついたとの意見が多く見られた。授業改善に向けて自らの授業を振り返り、課題を見つけ、改善していくための方法として、リサーチクエストを用いて、仮説の実践により、ある一定の成果が見られたといえる。自己到達感をも得られた。生徒の学力を向上させるために、あれこれ悩む事ほど楽しいことはない。仮説を立てて、実践した後、その結果が出たときなどは、大きな喜びを感じ、教員としてのやり甲斐も感じる事ができた。

今後の授業改善の課題

今回のアクションリサーチを通じて、成果をあげることができたと言えるのではないかと。教員としてもそれなりに成長できたと、何より、生徒の立場に立つことができたと思う。この活動を通じて見えてきた新たなクエストを始め、今後は、授業を振り返ることはもちろん、指導法について色々な視点から観察し、生徒に合った授業にするために、個々の課題について、アクションリサーチなどの方法を使って取り組んでいきたい。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-844-1221 電子メール